

# 令和3年 都立高校一般入試 学力検査問題分析シート

## <全体分析>

分析担当者名 : 遠藤 (担当教科: 英語 )  
 出題形式 : マークシート方式、記述2題  
 試験時間 : 50 分  
 問題数 : 大問数 4 題 / 小問数 23 題  
 難易度 : 易しい ・ やや易しい ・ **標準** ・ やや難しい ・ 難しい

## <大問分析>

大問番号	内容	各大問の分析	難易度
1 配点(合計20点) 4点×5	リスニング	難しい文法はあまり使われていないが、現在完了をつかった文に対して、どれくらいの期間かを問う問題Bは比較的難しかった。記述も代名詞の活用を必要とされ、答える場所はわかっていても正確に答えられない生徒が多かった可能性が高い。	やや難しい
2 配点(合計24点) 4点×3、12点	図表読み取り×2 内容一致×1 英作文	前年と同様に、日時を問う問題が二題出された。二題のうち後半の問題は、近年難化傾向にあるが、今年は特に文中の単語が直接解答に結び付くのではなく、言及されていない日時がどこかを問う問題だったため、やや解きづらかったと思われる。英作文はメール文の挿入で、特に変更なし。	やや難しい
3 配点(合計28点) 4点×7	対話文読解	問1～問5にかけて全てが指示語・省略を問う問題で、どれも前後の文から解答を導きだせる。前年同様、問6では本文の内容に合う単語を選択する問題が出たが、文法を聞かれている訳ではなく、文中で使用されている単語が答えなので、難しくはなかった。	標準
4 配点(合計28点) 4点×7	長文読解	ボランティアで児童館へ行った主人公が、子どもとの接し方を学ぶ内容。登場人物が少なく、かつ段落ごとにいつの話かが明確に記されているので、比較的読みやすい。設問は例年通りで、特に大きな変更は見られなかった。	標準
配点(合計 点)			
配点(合計 点)			

## <分析統括>

今回、関係代名詞や後置修飾が出ないということで、文章的に読みやすいものになっていたが、その補填として、指示語による表現が増えていた。問題もそれに応じて、指示語が何を指しているのかを意識した出題が多かった。会話文は前年より少し増えており、総合的にみても、高得点を狙うためには、読むスピードと情報処理能力が必要な内容だった。

## <指導を振り返って>

前回の課題として、読むスピードが遅く時間が足りないという生徒がいたため、2日に1度のペースで英文を読むルーティンをスタンダードを使い継続させた。しかし、そもそも文章を読む力がついていない生徒たちも一定数いて、そういう生徒に対する文章の読ませ方が確立できていないところがあった。文章が読めない生徒に対する指導法を塾全体で統一する必要がある。

# 令和3年 都立高校一般入試 学力検査問題分析シート

## <全体分析>

分析担当者名 : 鈴木美知子 (担当教科 : 国語 )

出題形式 : 正答記入式・記号選択式・200字作文

試験時間 : 50 分

問題数 : 大問数 5 題 / 小問数 25 題

難易度 : 易しい ・ やや易しい ・ 標準 ・ やや難しい ・ 難しい

## <大問分析>

大問番号	内容	各大問の分析	難易度
1 配点(合計10点) (1)~(5)×5	漢字の読み取り	春の臨時休校の影響もあり、中学3年の教科書で学ぶ漢字は出題なし。ただ、全体的な難易度に関しては、例年とあまり変わりなし。	標準
2 配点(合計10点) (1)~(5)×5	漢字の書き取り	春の臨時休校の影響もあり、中学3年の教科書で学ぶ漢字は出題なし。ただ、全体的な難易度に関しては、例年とあまり変わりなし。	標準
3 配点(合計25点) (1)~(5)×5	物語文 文学的文章	例年通りの問題形式と難易度。文章量も平均的。問題形式の内訳としては心情・様子の把握3問、理由説明1問、表現理解1問。(1)のみ根拠が該当場面全体を把握する必要があったが、それ以外の問題は例年通り傍線部の前後に根拠がある問題。	標準
4 配点(合計30点) (1)~(4)×5 (5)×10	説明文 論理的文章	問題形式と難易度は大きな変化なし。文章量に関しては3枚半と短くなっている。内訳は内容理解2問、理由説明1問、段落理解1問、200字作文1問。根拠は例年通り、傍線部の前後2段落以内にあり、接続語での論理展開も分かりやすいのに加え、分量が短かったため、点数は取りやすいと考えられる。	やや易しい
5 配点(合計25点) (1)~(5)×5	現古融合文 古典鑑賞文	問題形式の内訳は論説文の流れ1問、論説文の内容理解2問、現代語訳内容理解1問、古典文法1問。例年出題されていた現代仮名遣いと言葉の意味の問題がなくなり、古典知識を問う問題は減少。さらに、古典文法の問題が答えが絞れない理由で、一律5点加算されるため、実質論説文と現代語訳に関する問題のみとなっている。	標準
配点(合計100点)			

## <分析統括>

全体的には今年度も例年の形式を踏襲している。物語文・説明文においては文章の主旨や全体理解が必要な問題よりは傍線部に即して理解度を図る問題傾向が今後も続くと考えられる。現古融合文に関しては、古典知識を問う問題が減少したが、論説文、現代語訳、古文の3種類の文章を関連づけて理解する必要が高まっており、難易度は例年と大きく変わらないと思われる。説明文で差がつきにくいという近年の傾向は今年度も続く予想される。そのため、今後は現古融合文の現代文問題が重要となると考える。

## <指導を振り返って>

漢字に関しては、字の丁寧さと正答率をさらに徹底して指導する必要があると考えられる。作文に関しては、模試などの結果から減点方式と加点方式で点数に誤差が出ているのに加え、本番でも高校によってどちらの採点方式が明確ではないため、入試特訓などで採点する際は加点方式での指導の方が、誤差が少ないと考える。物語文に関しては、より場面の区切りを意識させた指導が得点と時間短縮につながると考える。論説文に関しては、引き続き指示語へ着目した指導を行い、論理展開の切れ目を意識することが重要だと考える。上位校を狙う生徒へはこれまで通り現代仮名遣いを確認した上で、現古融合文対策として3種類の文章を関連づけて読む練習を増やす必要があると考える。

# 令和3年 都立高校一般入試 学力検査問題分析シート

## <全体分析>

分析担当者名 : 井口桑 (担当教科: 社会)

出題形式 : マークシート+記述

試験時間 : 50分

問題数 : 大問数 6題 / 小問数 20題

難易度 : 易しい ・ やや易しい ・ 標準 ・ やや難しい ・ 難しい

## <大問分析>

大問番号	内容	各大問の分析	難易度
1 配点(合計20点)	小問集合	難易度としては標準的だが形式的には変化があった ①歴史的に重要な場所の地図上の位置を指摘する問題が消えた ②(おそらく公民の出題範囲が縮小されたため)大問1の小問数が1問増えた。	標準
2 配点(合計15点)	世界地理	(1)は雨温図問題に各国の産業が絡んだ完答問題なので、産業についての知識がない生徒は難しい。(2)と(3)は基本的な事項が押さえられていれば解ける問題だが、知識がまばらだったり、読解力のない生徒は難しい。	やや難
3 配点(合計15点)	日本地理	(1)は標準的。(2)は「2点間の分析」という形式は大問2に稀に見られる形式だが難易度は標準。(3)は記述すべきポイントを問題文から読み取れていれば特に難易度は高くない(一般常識は必要だが)。	標準
4 配点(合計20点)	歴史	(1)は標準的。(2)はたまに出る、「江戸時代ということはあるが、江戸時代前期か中期か後期かが把握できていないと解けない問題」。(3)もあまり見慣れない表現があるので正答率が低いだろう。(4)は標準的。	やや難
5 配点(合計15点)	公民	(1)、(2)は標準的。(3)については、記述のテーマは分かりやすいが、各資料から細かい点まで拾ってきたかで、満点が減点かが変わってくる。	標準
6 配点(合計10点)	融合	(1)は旧宗主国を生かした頻出問題。(2)はよくある「しっかり読めばできる問題」。 例年小問3問だが、公民の範囲縮小に伴い小問が2問となった。	標準

## <分析統括>

完答問題は去年までの増加傾向を引き継ぎ、1問増加。点数にして半分以上が完答問題となった。正確な知識をもっていないと解けないため、早めの基礎の定着が求められる。また、記述問題も年々資料の複雑性が増しているため、「この問題からは、何を答えなければいけないのか」というポイント挙げに慣れていなければいけない。

## <指導を振り返って>

条件反射的に選択肢を絞っていくために、都立最重要項目についてのチェックテストを設けるべき。また、完答問題に対応するために、過去問対策の際に、「全ての選択肢について根拠を持って正誤を判断する」ということを各教室徹底すべき。記述問題対策として、①「この問題からは、何を答えなければいけないのか」というポイントを挙げる②各ポイントを埋めるために資料の各部分を利用する、という流れを徹底する。

# 令和3年 都立高校一般入試 学力検査問題分析シート

## <全体分析>

分析担当者名 : 志村 円香 (担当教科: 数学)

出題形式 : 正答記入式・マークシート方式・証明問題記述

試験時間 : 50 分

問題数 : 大問数 5 題 / 小問数 19 題

難易度 : 易しい・**やや易しい**・標準・やや難しい・難しい

## <大問分析>

大問番号	内容	各大問の分析	難易度
1 配点(合計46点) (1)~(8)各5点 (9)6点	小問集合	例年通りの問題数・配点であった。(8)が資料の整理と確率が交互に出題されており、今年度は予想通り確率が出題された。作図も漏れなく教科書や問題集に必ず出されている問題であったため学習していれば正答できる問題。強いていえば(2)の文字式の計算が分数になったところで正答率低下の可能性あり。	やや易化
2 配点(合計12点) (1)5点 (2)7点	式の利用	未知数が「辺の長さ=2a」と「枚数=n」と2つあり少し戸惑う部分あるかもしれないが、落ち着いて考えれば内容としては難しいものではなかった。文章をしっかりと読み、1枚あたりの面積が正方形なら1辺×1辺、円なら半径×半径×πという基本に忠実に式で表せられれば特に手数も多くなく式を導くことができる問題。	標準
3 配点(合計15点) (1)~(3)各5点	1次関数	1次関数のみの問題であったが、すべての問題に置いて一般的に問われる内容だった。最後の問題は等積変形の利用であるが、1次関数の問題では平行=傾きが等しいことを活用して解答するよくある問題なので、関数を得点源としていた生徒や、大問3~5で最後の問題を解答しなかった生徒には得点してほしいものだった。	標準
4 配点(合計17点) (1)、(2)②各5点	平面図形	(1)は例年通り未知数を含む求角の問題であったので得点してほしいもの。(2)に関しては、今年度最も難化したと感じさせる設問だったように思う。まず①について例年は合同または相似の証明で、二等辺三角形の証明は予想外の出題だった。②は相似比および底辺を共有する三角形の比を用いるため、解答に辿りにくかった。	やや難化
5 配点(合計10点) (1)(2)各5点	空間図形	(1)は基礎的な知識で解ける問題。ただ過去問にあまりないパターンのため苦手な生徒もいた。(2)については今回はかなり点数が取りやすかった問題である。点の位置が把握できれば、底面積と高さを求めれば直接求積できることに気付けるので、80点以上を目指していた生徒にとってはラッキーな問題だったのでとは推測する。	易化
配点(合計 点)			

## <分析統括>

大きく傾向が変わったわけではないが、マークシート解答以外に該当する解答を記号で選ぶものが増加した。そこで選択ミスをしてしまう生徒が若干数。難易度は高くないものの、今まで問われなかった内容があったため、改めて基本的知識とそれに対する理解度が試された問題だったと言える。しっかりと教科書および標準的な問題の理解ができれば平均点以上の得点をとるのは難しくはないため、継続的な学習が求められると思う。

## <指導を振り返って>

数学において大事な単元や知識・理解はほぼほぼ決まっており、そこから逸脱して問われることはない。ただ、大学入試改革や今回の設問のマイナーチェンジを鑑みると、より一層、数学というものを根本的な部分から理解をしていないと解答ができないと感じている。教科書や塾教材に記載されている標準的な内容を、あらゆる単元に対して正しく理解し説明できる力を、今後より意識して指導していくことが必要だと思った。

# 令和3年 都立高校一般入試 学力検査問題分析シート

## <全体分析>

分析担当者名 : 福田 尚弘 (担当教科: 理科)

出題形式 : 正答記入式、記述2題

試験時間 : 50分

問題数 : 大問数 6 題 / 小問数 25 題

難易度 : 易しい ・ やや易しい ・ 標準 ・ **やや難しい** ・ 難しい

## <大問分析>

大問番号	内容	各大問の分析	難易度
1 配点(合計24点) (1) ~ (6) × 4 (4) 完答	小問集合 生物・物理・地学・ 物理	例年通りの小問集合。設問数が5問から6問に増加。 (4) 完答問題だが、4択×4択なので解き方は変わらない。	易しい
2 配点(合計16点) (1) ~ (4) × 4 (1) 完答	小問集合 生物・物理・地学・ 物理	例年通りレポート問題。計算が必要な問題が4問中3問あるため、難しく感じる。天体の計算は苦手な生徒が多い傾向がある。	難しい
3 配点(合計16点) (1) ~ (4) × 4 (2) (3) 完答	天気 地学	完答問題が2つ、十分な知識がないと得点につながらない。問題の難易度は基本的なもの。(1) 同じ湿度で水蒸気量の並び替えがやや難しい。	標準
4 配点(合計12点) (1) ~ (3) × 4 (2) (3) 完答	植物 生物	植物の観察、実験に関する問題。出題傾向は例年と変わらない。対照実験について等、過去問を解いていればよく見る問題。3問中2問が完答。	標準
5 配点(合計16点) (1) ~ (4) × 4 (1) (2) 完答	化学反応 化学	(3) 昨年までのグラフと違い、計算結果をグラフにするため難しい。(4) 計算結果の記述問題。(3) のグラフを基に計算が必要なため(3) を解くことが必須。	難しい
6 配点(合計16点) (1) ~ (4) × 4 (3) (4) 完答	電流 物理	電流と磁界に関する問題。前半は基本的な知識があれば解ける。(4) ではコイルの回転する仕組みが初めて出題された。教科書にあるモーターの仕組みを知っていれば容易。	やや難しい

## <分析統括>

昨年から難化した難易度のまま、全体的には難しい。基本的な知識があれば解ける問題がある一方、計算を必要とする問題が多く難しくなっている。完答問題が増えた為、十分な知識が必要とされる。

## <指導を振り返って>

基本的な知識を覚えられたか小テスト、再テストの徹底が必要。計算問題、記述問題などファイナルステージの後半のテーマ別学習が役に立つと思われる。過去問を解くことに加えて、難易度が令和2年のものになることを話し、試験当日に動揺しないように繰り返し伝える必要がある。